

酒に強い遺伝子を持つ人は、酒に弱い遺伝子を持つ人より約二・三倍も痛風になりやすいとの研究成果を防衛医大などのチームがまとめ、十六日付の英科学誌電子版に発表した。酒に強い人は飲酒量が多いとも考えられ、飲酒が痛風を発症する危険性を高めることを改めて裏付けた。

酒に強い人は痛風リスク2倍

防衛医大など遺伝子分析

チームは、体内でアルコールを分解する酵素「ALDH2」に着目。この酵素を作る遺伝子に変異があると分解酵素がうまく働かず酒に弱いとされる。日本人男性の痛風患者千四十八人と痛風ではない千三百三十四人で、遺伝子の変異の有無を調べた。その結果、遺伝子に変異が

ない人は、変異がある人より痛風を二・二七倍発症しやすいことが分かった。日本人の約四割は、遺伝子に変異があり酒に弱いタイプという。防衛医大の松尾洋孝講師は「遺伝子を調べてリスクが高い人が分かれば、個人差に応じた予防や治療につながる」と話している。

中日新聞

2016/05/17
3面

日刊工業新聞

2016/05/18
24面

酒豪は痛風リスク倍増

防衛医大など 遺伝的に解明

防衛医科大学校の松尾洋孝講師と崎山真幸医官らは、酒に対する強さ・弱さに関わる酵素「2型アルデヒド脱水素酵素（ALDH2）」を作る遺伝子の

個人差が、痛風の発症に關与していることを発見した。痛風患者と痛風でない人の遺伝子を解析。その結果、ALDH2の活性が高く

は、同活性が低く酒に弱い人に比べて痛風発症リスクが2・3倍高いことが分かった。遺伝子を基に痛風を

ALDH2は、アルコールの分解で生じる毒性物質「アセトアルデヒド」を酸化し、毒性のない酢酸に変える機能を持つ。同機能の活性度はALDH2を作る遺伝子の個人差で

研究チームは医療機関の協力を得て、日本人男性の痛風患者1048人の血液から遺伝子を解析。痛風のない日本人男性の遺伝子解析結果と比較し、ALDH2遺伝子の個人差が痛風発症に關わることを突き止めた。

酒に強い人痛風の危険2倍

酒に強い遺伝子を持つ人は、酒に弱い遺伝子を持つ人より約2・3倍も痛風になりやすいとの研究成果を防衛医大などのチームがまとめ、16日付の英科学誌電子版に発表した。

酒に強い人は飲酒量が多いとも考えられ、飲酒が痛風を発症する危険性を高めることを裏付けた。日本人男性の痛風患者1048人と痛風ではない1334人で、遺伝子の変異の有無を調べた結

果、遺伝子に変異がない人は、変異がある人より、痛風を2・27倍発症しやすいことが分かった。日本人の約4割は、遺伝子に変異があり酒に弱いタイプという。

酒強い人痛風の危険2.3倍

酒に強い遺伝子を持つ人は、酒に弱い遺伝子を持つ人より約2・3倍も痛風になりやすいとの研究成果を防衛医大などのチームがまとめ、16日付の英科学誌電子版に発表した。酒に強い人は飲酒量が多いとも考えられ、飲酒が痛風を発症する危険性を高めることを改

防衛医大が遺伝子解析

めて裏付けた。チームは、体内でアルコールを分解する酵素「ALDH2」に着目。この酵素を作る遺伝子に変異があると分解酵素がうまく働かず酒に弱いとされる。日本人男性の痛風患者1048人と痛風ではない1334人で、遺伝子の変異の有無を

調べた。その結果、遺伝子に変異がない人は、変異がある人より、痛風を2・27倍発症しやすいことが分かった。日本人の約4割は、酒に弱いタイプという。防衛医大の松尾洋孝講師は「痛風は生活習慣病だが、遺伝子との関連も強い。遺伝子を調べてリスクが高い人が分かれば、個人差に応じた予防や治療につながる」と話している。